

# 五新聞

10. No. 101  
10. 行任  
05. 派資

ソバの花を少く思ふはじめる。静かむ祖谷の夜  
向ても白り裂くモズの声が増きはじめる十月。  
とうとう十五回目にむく。ツヤズをスタイニ祖谷しか大坂、武  
原屋敷が開演。祖谷の秋の夜を色どりました。  
十五回になると顔馴染も多くなり、さながら同窓会のお  
うほ会場の奥席用兵。大井さんらプレイヤーの皆さんへの心と観  
客の皆さんの心。そこそこ、それを迎える祖谷のスタッフの皆  
さんの心が少くぞる通ひめえ  
ば「思い出し一夜」がより一層  
の超があがる。  
大井さんは、今回、祖谷の粉搥  
き歌とをびブラブをこぞ奏ひる。



また遠く  
そこには  
大井さん  
をこそ、  
大井さん  
をこそ、  
大井さん  
をこそ、  
大井さん  
をこそ、  
大井さん  
をこそ、

粉搥き歌が  
あつた。  
ありがとうございます。  
おいで下さって白  
前夜祭の日まで一段と輝きます。

おすに、おすに  
おすに、おすに  
おすに、おすに  
おすに、おすに

おすに、おすに  
おすに、おすに  
おすに、おすに  
おすに、おすに



ありがとうございます。いと  
えにいと人い  
いませ。  
山のぬき祖谷ま  
ご足を運んで下  
さった村外から  
来て下さうた。ま  
ごこれけいさん。  
岡山から、スワ  
フとて料理を  
牛乳、下さうに  
けいさん、午前中  
早く到着して  
疲れる。  
おせ、おせ、おせ

